

再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：村山 一弥

事業名	一般国道468号 <small>しゅとけんちゆうおうれんらくじどうしやどう</small> 首都圏中央連絡自動車道 <small>もばら きさらづ</small> (茂原～木更津)	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局	
起終点	自： <small>ちばけんもばらししがみ</small> 千葉県茂原市石神 至： <small>ちばけんきさらづしいんなり</small> 千葉県木更津市犬成			延長	28.5km	
事業概要						
<p>圏央道は、東京都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている延長約300kmの高規格幹線道路であり、首都圏の幹線道路の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、首都圏全体の道路交通円滑化や機能の再編成等を図る目的の事業である。</p> <p>茂原～木更津区間は、圏央道（東金茂原道路）、東京湾アクアライン連絡道及び館山自動車道と接続し、千葉県と東京都並びに神奈川県とを結ぶ広域的な高速交通ネットワークを形成するとともに、房総半島における新たな自動車専用道路として、地域の活性化並びに地域間の交流及び連携の強化を図り、地域経済及び産業の発展に寄与する道路である。</p>						
H4年度事業化		H6年度都市計画決定		H10年度用地着手		
H11年度工事着手						
全体事業費		約2,198億円		事業進捗率		
				80%		
				供用済延長		
				28.5km		
計画交通量						
17,600～25,500台/日						
費用対効果分析結果	B/C	総費用 <small>(残事業)/事業全体</small> 302/2,558億円 （事業費：285/2,336億円 維持管理費：17/222億円）		総便益 <small>(残事業)/事業全体</small> 616/3,135億円 （走行時間短縮便益：504/2,652億円 走行費用減少便益：61/298億円 交通事故減少便益：52/185億円）		基準年 平成26年
	(事業全体) 1.2 (残事業) 2.0					
感度分析の結果						
<p>【事業全体】交通量：B/C=1.2～1.2（交通量 ±10%）【残事業】交通量：B/C=2.0～2.1（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.2～1.2（事業費 ±10%）事業費：B/C=1.9～2.3（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.2～1.3（事業期間±20%）事業期間：B/C=2.0～2.3（事業期間±20%）</p>						
事業の効果等						
①産業活性化の支援						
<ul style="list-style-type: none"> ・圏央道（茂原～木更津）の開通により、成田・羽田の両空港や首都圏各地へのアクセス性が向上し、千葉県内の新規工場立地面積は大きく増加。 ・アクアライン・圏央道沿線地域基本計画の中で「特に重点的に企業立地を図るべき区域」に指定されているかずさアカデミアパークの新規立地件数も堅調に推移。茂原にいほる工業団地（現在整備中）では平成29年度から分譲を開始予定。 ・圏央道（茂原～木更津）が千葉県内の産業活性化を支援。 						
②水産業活性化の支援						
<ul style="list-style-type: none"> ・全国有数の漁業県である千葉県は、「千葉ブランド水産物認定制度」により水産業の振興を推進。 ・勝浦漁港のカツオは千葉ブランド水産物に認定されており、上場水揚量は全国2位。 ・東京・横浜の中央卸売市場における千葉県産カツオの取扱額は1位。 ・圏央道（茂原～木更津）の開通により、漁港から市場までの所要時間が34分（27%）短縮。 ・アクセス性の向上により千葉県内の水産業活性化を支援。 						
関係する地方公共団体等の意見						
千葉県知事からの意見						
<ul style="list-style-type: none"> ・圏央道は、アクアラインと及び館山道と一体となって高速道路ネットワークを形成し、地域経済の活性化や観光立県千葉の実現に資するとともに、災害時の道路ネットワークを強化する極めて重要な道路である。 ・本区間の開通により、南房総地域、九十九里地域の各観光地へのアクセス性が向上し、観光入込客数が増加するとともに、千葉県内の物流施設等の立地件数は増加しており、経済に好循環をもたらすストック効果が現れている。 ・このような効果を最大限発現するためにも、円滑な交通を確保し更なる生産性の向上を導くための4車線化が必要であり、さらに、沿線地域等からは（仮称）かずさインターチェンジの整備が求められている。 ・ついては、事業の継続が必要であり、ストック効果を最大限発現するためにも、事業の推進を図られたい。 						

事業評価監視委員会の意見

- ・事業の継続を承認する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

館山道・富津館山道路（平成19年）全線供用／東京湾アクアライン（平成9年）全線供用

事業の進捗状況、残事業の内容等！

- ・事業進捗率80%（うち用地進捗率99%）（平成29年3月末時点）
- ・平成18年度：木更津東IC～木更津JCT間 延長7.1km 4/4車線開通。
- ・平成25年度：茂原長南IC～木更津東IC間 延長21.4km 2/4車線開通。当該区間の整備により全線開通。
- ・暫定2車線区間においては、交通状況を踏まえながら4車線整備を検討。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・暫定2車線区間においては、交通状況を踏まえながら4車線整備を検討。

施設の構造や工法の変更等

- ・新技術の積極的な活用等により、コスト縮減に取り組んでいく。

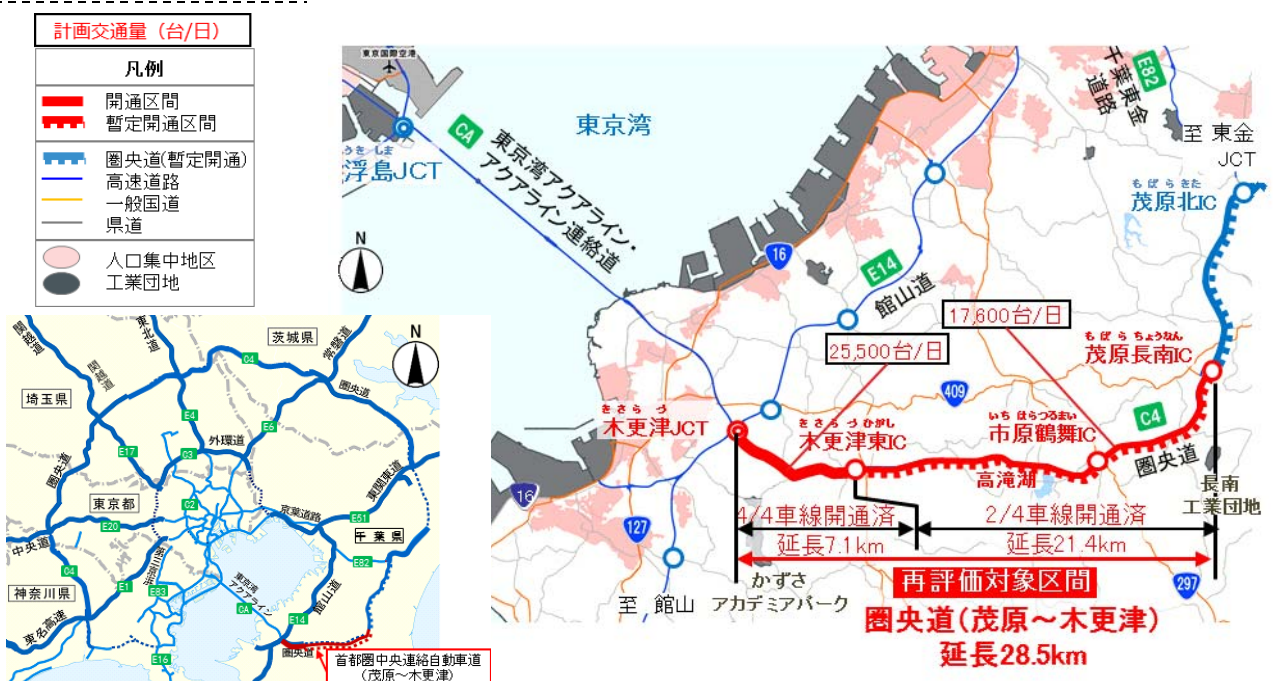
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高く、早期の効果発現を図ることが適切である。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。